

EM菌利用で河川の浄化を

連携して保全活動を／町長



はま だ じゅんいち
浜田 純一 議員

要とする合併浄化槽の設置要望が今後も多く見込まれるとは思われない。

現在佐賀地区の漁協婦人部の方々がEM菌を使いEM活性液を活用して環境改善に取り組んでおり、町の助成をしている。

① 昨年の12月議会でEM菌活性液活用での河川の浄化について質問した。

答弁では河川の汚染の原因として、生活様式が近代化によって大きく変化したこと、生活雑排水などの河川への放流が考えられ、環境施策は何らかの形で打っていかねばならないので、今後も30基程度を見込む合併浄化槽の設置を主体に取り組みということだった。

果たして、高額な費用を必

答

大西町長

松本住民課長

① 生活環境保全に対する町の環境施策の一つとして、本年度町内関係各課の意見をまとめ、県とも協議をして黒潮町生活排水基本構想を策定した。

集合型の合併槽については、完成以後の運営が困難となっていることなどから、個別処理による合併槽の設置の推進を図っていかうと思っている。

大方地区にもEM活性液を活用して環境改善に取り組んでいる婦人グループ、大方環境浄化微生物の会があり、環境改善の活動をしてきている。町としても、行政だけの力では環境保全への取り組みには限界があり、こういった民間グループと協力連携して保全活動を推進することが重要だと思っている。

② 環境改善について町長としての見解はどうか。

また、この婦人グループは継続的に環境保全活動に取り組んでおり、一定の助成の必

要もあると考えている。この助成により、一層の活動が推進され、住民一人一人の環境保全への意識の向上と啓発につながるものと考え、今後活動グループと助成に向けての具体的な事業の内容等について協議検討していくこととする。

② 環境については、行政だけでなく関係施策をやっていくことにはその事業効果として限

度があり、民間の皆さまと連携して取り組んでまいりたいと考えている。

また、今回の東日本大震災を考えると、今後国策として自然エネルギーへの転換が相当力を入れて進んでくると考えられ、当町としても国策に乗り遅れることのないよう、いろいろな知恵を絞って対応をしていきたい。

